

平成29年2月13日

浜田市議会議長 西 田 清 久 様

議員名 芦 谷 英 夫



調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1、日 時 平成29年2月4日(土) 13時30分～16時30分

2、研修内容 「地域包括ケア推進シンポジウム

～持続可能な地域づくりを目指して～

3、研 修 先 美郷町(みさと館 町民ホール)

4、調査経費 浜田市⇒美郷町⇒浜田市(自家用車使用)

ガソリン代 1,360円

5、調査研究活動の概要

別紙報告書のとおり



「地域包括ケア推進シンポジウム～持続可能な地域づくりを目指して～」

平成29年2月13日

- 1 日 時 平成29年2月4日（土）13時30分～16時30分
- 2 場 所 美郷町（みさと館 町民ホール）
- 3 内 容 基調講演「持続可能な地域づくりに向けて～地域包括  
ケアシステムが目指すもの～」 講師 島根県健康推進課長 村下 伯  
活動報告は5団体組織から、パネルディスカッションは、講師・発表者・  
県央保健所長・邑智郡医師会会長

- ① これまでの病院完結型から医療機関間の役割分担を進め、地域連携型医療へ転換し、病院にかかると退院後は、地域包括ケアシステムで医療に加え介護・介護予防・生活支援・住まいまで連携し支え、住み慣れた地域で自分らしく暮らしを続ける地域社会をつくる。
- ② 偏った食事、低栄養などが重要であり、栄養アンバランスは生活習慣病を引き起こし、認知症が早期に現れ、転倒しやすく骨折に至り寝たきりになり、これらは栄養から起因する。口腔ケアが重要で、おいしく食べるための入れ歯、歯の噛み合わせなどをケアする体制が必要で、さらに嚥下予防なども重要である。
- ③ 高齢者を対象とした「地域包括ケアシステム」は、全世代・さまざまな障害・疾患を持った人も対象とした地域ケアシステムに発展させ、壮年の引きこもりと老親が地域で孤立、難病患者・がん患者の就労支援、障がいが疑われる人、若年認知症・高次脳機能障害などに対しても総合的・体系的に対応するシステムへと進化させる。
- ④ 施設と地域との連携と交流を進め、地域住民の傾聴ボランティア活動などを通じて、人的な物的な資源を掘り起こし活用し、地域ならではの取り組みを進めることが重要である。

4 所 見

- ① 地域包括ケアシステムを機能させるには、身体を動かすこと、バランスのとれた栄養、生活ハリなどが大切で、そのため集い、趣味、生きがい、移動手段などが確保され、食生活の支援と配食サービスや買い物支援など地域の支援体制があり、そのため地域コミュニティが紡ぎ続けられることが必要である。人口が減少はこれから数十年は続き、地域経営は、人口減少、高齢人口の増、高齢化率の上昇などを前提とした施策を進める必要がある。
- ② 浜田市では、介護予防日常生活支援総合事業を開始し「ミニディサービス」を「新ミニディサービス」に移行し、集いの場「公民館サロン」を開設するとされている。いまある高齢者サロンをどう支援するか、市民、利用者の混乱を避けなければならない。
- ③ 「新ミニディサービス」移行は送迎が無くなり、弁当代とおやつ代負担であったものが、負担はサービス費の1割の場合月2～3千円前後の金額となる。普通の人の歩行可能距離は1キロとされ、高齢者の場合500m以上の歩行は不可能で、負担と送迎の有無など、受け入れられる案かどうかの検証が必要である。
- ④ 集いの場「公民館サロン」開設は、公民館が26館あり、これは送迎なし、地域のボランティアが主体となって行うとされている。ところが5日に行われた「人づくり郷づくり交流会」での公民館からの報告でも、「公民館サロン」に触れられた地域はなく、地域には受け入れられていないことがみてとれ、しっかり質していく必要がある。
- ⑤ 高齢者の生きがいづくり、健康づくり、介護予防事業などは、住み慣れた地域で顔の見える隣近所、生活圈域の中で行うことで効果的であるとされ、自治会や町内会などの中から作り上げることが重要で、そのような地域総がかりの仕組みに、福祉、介護、高齢者福祉を組み込むこと以外に解決策はないように思われる。